

日本におけるスポーツサイクルの普及・活用についての研究

A study of spread of sport cycle in Japan

1K04B215-6

宮 ゆう樹

指導教員

主査 間野義之先生

副査 作野誠一先生

緒言

私は大学1年の春より自動車ロードレースのスタッフとして活動をしてきた。私がスタッフをしていた大会はプロのレースではなく、いわゆるアマチュアレースであり、言わば市民マラソンの自転車版のようなものである。このようなレースで使用するスポーツサイクルは現代では多様な用途がある。草レーサーから一般の愛好家まで幅広い層から支持を受けるスポーツサイクルであるが、一般的にはその認知度は低い。私は自身の活動の経験からどうすればスポーツサイクルを普及することができるかに興味を持ち本研究を行うことにした。

研究目的

本論文はスポーツサイクル普及に向けて、スポーツサイクルの秘めている可能性について分析すると共に、普及の障壁となる問題点を明らかにすることを、研究目的とする。

スポーツサイクルの定義

スポーツサイクルとは、スポーツの競技の一種というわけではなく、自転車の種類を指し示す言葉である。明確にこの自転車がスポーツサイクルだという定義は存在しておらず、言葉の使われる場合によって含まれる内容は変化していく。本研究で使用するスポーツサイクルという言葉の定義は、一般に“スポーツサイクル”と呼ばれている以下の種類の自転車をまとめて指す言葉とする。

- ・ロードレーサー
- ・クロスバイク
- ・マウンテンバイク
- ・サイクルフィギュア
- ・トラックレーサー

また、実用的な車種の中にも、さらにオンロード(整備された道路)用とオフロード(山道や砂利道などの未整備道路)用に分けられる。

考察

本研究では車と比較することによって、スポーツサイクルが4つの点で優れていることを示した

- ① 自転車は環境にやさしい乗り物である。
自動車の排気ガスによる環境汚染は深刻な問題となっており、逆に自転車は一切排気ガスを出さないクリーンな乗り物であり、これを活用していくことで環境への負荷を減らすことができる。
- ② 自転車を利用することは経済的である。
交通渋滞は社会問題であり、その解消のために道路整備に税金が費やされている。また自動車と自転車の道路占有面積を比較し、自転車の方が自動車より遙かに効率的に道路を使用できることがわかった。さらに都市部では、渋滞時自転車よりも車の方が移動に時間がかかることもわかった。以上より、少ない面積で早く移動できる自転車の方が都市部には適していると思われる。
- ③ 自転車は体にやさしい乗り物である。
体にやさしいとは、単に自転車に乗るとその効率的なエネルギー消費により健康を保つことができるだけでなく、サスペンションなどの機能の補助もあり膝への負荷が他の運動よりも格段に低いことも意味している。
- ④ 自転車は人にやさしい乗り物である。
自転車事故は車に関わる事故に比べ格段に死者数が低く、人にやさしい乗り物ではないかとの見解に至った。

提言

ここまでの分析で得られた特性を基に、スポーツサイクル普及に向けた提言を行う。スポーツサイクルを普及させるためには、走行空間の確保、保管場所の整備、企業の理解が必要である。特に、日本の自転車専用道路の整備はかなり遅れており、この自転車道の整備を急速に進めることが急務である。これらのインフラ整備を進めるとともに、実際にスポーツサイクルに乗車する機会を提供していくことも大切なのではないだろうか。普及の成功事例としてフットサルある。フットサルの普及ではインフラの整備とサービスの充実が同時並行的に進められた。フットサルを参考にすると、スポーツサイクルの普及にはインフラの整備とスポーツサイクルを実際に乗る場の提供の両方が必要であると考えられる。